

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal prenatal psychological distress and motor/cognitive development in two-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル:

妊婦の精神的ジストレス(不安・抑うつ)と子どもの2歳時の神経発達

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Developmental Origins of Health and Disease

年: 2022 DOI: 10.1017/S2040174422000691

筆頭著者名: 森 美由紀

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊婦の精神的ジストレス(不安・抑うつ)と出生時の2歳時点の運動・認知発達との関連を検討しました。

方法:

不安・抑うつのスクリーニング法 Kessler 6-item psychological distress scale (K6) が5点以上を精神的ジストレス(不安・抑うつ)とし、妊婦(母親)を以下の4群に分けました。

- ① 妊娠前半期(中央値: 妊娠14週)と後半期(中央値: 妊娠27週)ともに  $K6 \leq 4$
- ② 妊娠前半期は  $K6 \leq 4$ 、後半期では  $K6 \geq 5$
- ③ 妊娠前半期は  $K6 \geq 5$ 、後半期では  $K6 \leq 4$
- ④ 妊娠前半期と後半期ともに  $K6 \geq 5$

出生児が2歳のときの神経発達は新版 K 式発達検査 2001 を用いて評価し、妊婦の精神的ジストレスとの関連を分析しました。

結果:

妊婦(母親)が妊娠前半期と後半期がともに K6 が4点以下であった群と比較して、妊娠前半期と後半期がともに K6 が5点以上であった群は、男児では姿勢-運動領域(運動発達)と言語-社会領域(言語認知発達)のスコアが有意に低く(偏回帰係数  $-3.68$ 、 $-1.98$ )、女児では言語-社会領域(言語認知発達)のスコアが有意に低いことがわかりました(偏回帰係数  $-1.95$ )。一方、妊娠前半期あるいは後半期のいずれかの時期のみ K6 が5点以上であった群は、妊娠前半期と後半期がともに K6 が4点以下であった群と比較して、子どもの神経発達に有意な差はありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

海外の研究でも、妊婦の不安や抑うつなどのメンタル不調は、その子どもの運動や認知発達低下のリスクとなることが報告されていますが、どの妊娠時期のメンタル不調が子どもに影響を与えるのかは一定の見解がありません。本研究の結果からは、妊婦のメンタル不調が妊娠前半期と後半期に継続してあった場合のみ、子どもの運動や言語的認知発達低下のリスクとなることが示されました。これは、妊娠早期にメンタル不調を発見し、改善させることで、子どもへの影響を予防できる可能性を示しています。研究の限界として、妊婦の精神的ジストレスは母親の自記式の調査に基づいており、医療機関において医師に診断されたものではないことがあげられます。

結論:

妊娠前半期と後半期の両方に、精神的ジストレス(不安・抑うつ)があった妊婦から生まれた子どもは、男児では運動と言語的認知の発達が低く、女児では言語的認知の発達が低いことがわかりました。ただし、妊娠前半期、後半期のいずれかだけの場合は、生まれた子どもの運動や言語的認知の発達に有意な低下はありませんでした。